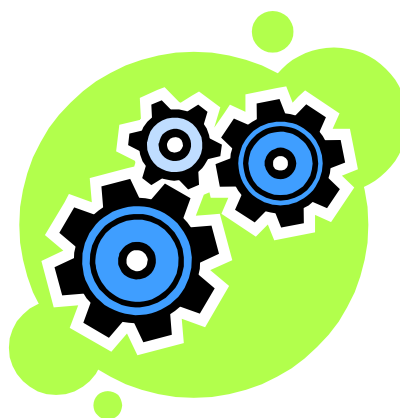


埼玉県合同異業種交流会報告書

～ これからの異業種交流会のあり方～



2007年3月15日実施

埼玉県産学官交流プラザ

開催概要

第1部 定例会（意見交換会）

- 1 日時：平成19年3月15日（木） 15時00分～17時00分
- 2 場所：産学連携支援センター埼玉 4階 会議室
さいたま市中央区上落合 2-3-2 アルーサ A 館
- 3 内容：県内異業種交流会の活動紹介・会員企業の紹介
パネルディスカッション 「これからの異業種交流会のありかた」
- 4 出席者：70名

第2部 懇親会

- 1 日時：平成19年3月15日（金） 17時30分から
- 2 場所：ホテルプリランテ武蔵野 2階 エメラルドC
さいたま市中央区新都心 2 - 2

上田清司 埼玉県知事ご出席
- 3 出席者 53名

1．稲見産学官交流プラザ会長あいさつ

本日は年度末のお忙しい中大勢ご参加いただきましてありがとうございます。埼玉県合同異業種交流会という看板をかけさせていただきまして、本日埼玉県産学官交流プラザの3回目の定例会として開催させていただくことになりました。誠にありがとうございます。

現在、埼玉県の異業種交流会は、100以上あるそうですが、われわれの産学官はじめ、今日おいでいただきました各会の代表のそれぞれの会におきましても長い歴史を踏んで本日まで参っていると思います。しかし、時代も変わってきておりまして、これからの異業種交流会のあり方について、意見交換をしたいという企画を立てさせていただきました。皆さん快く引き受けていただきまして心より感謝いたします。本日は、大変お忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。

2．白山埼玉県産業技術総合センター所長あいさつ

みなさま、こんにちは、本日の埼玉県合同異業種交流会の開催、誠にありがとうございます。今日お集まりの皆様には、日ごろ県の産業労働行政の推進に深いご理解と一方ならぬご協力をいただきましてありがとうございます。私たち、産業技術センター、川口の本所と熊谷の北部研究所でそれぞれ異業種交流会のお手伝いをさせていただいております。そこで、今日埼玉県産学官交流プラザの稲見会長さんをはじめとしてそれぞれのグループの方が一堂に会して、一度原点に立ちかえって、さらに発展するための方策をみなさんで考えていただく、そして私たちも、会がさらに人的な技術的な交流にさらにつながりますように支援してまいります。



3. パネルディスカッション

パネラー

埼玉県産学官交流プラザ

会長 稲見正 有限会社共栄電子研究所 代表取締役

埼玉県技術交流プラザ

代表幹事 海老原武士 株式会社エビハラ 代表取締役会長

さきたま利根テクノプラザ

代表幹事 小菅一憲 東洋パーツ株式会社 代表取締役会長

埼玉食品テクノプラザ

前代表幹事 間庭理 有限会社まにわ製麺所 代表取締役

あいあい会

会長 森田豊治 株式会社ファインテック 代表取締役

コーディネーター

埼玉県産学官交流プラザ

会員 河野律子 河野経営研究所 代表取締役 中小企業診断士



河野

コーディネーターを勤めさせていただきます河野と申します。本来ならばお一人ずつの講演会をお伺いして、それも2時間ぐらいずつたっぴり、お話の内容のある方に贅沢なことにパネルディスカッションということで短い時間でお話いただくわけですので、聞き足りないことがあるかと存じますがよろしく願い申し上げます。

今回は、埼玉県産学官交流プラザの主催事業ではございますが、参加企業様の他の異業種交流会ともさらに交流を持つことによって、埼玉県産業技術総合センターにお世話になっております異業種交流会が活性化するというを目的にしております。

経済産業省の中小企業行政も、知財活用・新連携から、19年度はものづくり中小企業の高度化支援、さらには、中小企業地域資源活用プログラムといったように、私の感じるところ泥臭くなってきたのかなと感じています。このようななかで、地域に根ざして活躍する中小企業が頼みにしております公的な試験研究機関、埼玉県産業技術総合センターにお世話になって活動しております異業種交流会が、どのように活動をしているのか、どのような企業が参加されているのかなど、具体的なお話をいただければと思います。

ご自身のご企業の概況と、それから、代表を勤められておられます異業種交流会についてお話頂ければというふうに思っております。

稲見

私は昭和47年に、日本のモータリゼーションが立ち上がったころ、大気汚染、あるいは水質汚染、が社会的問題になっていた時代に、前職でやっていたアナログコンピュータ技術あるいは分析技術そういうものを生かせるチャンスと思ひまして会社を設立し、30数年立ちました。現在、私が代表で、あと息子が2人、家内いう最小単位の会社を現在も続けております。

異業種交流会に参加させていただいて、10数年になりましたが、最近大学との接点もてる機会ができました。大学のシーズを私のところの問題・テーマにマッチングするものを探しておりましたら、1年ぐらいかかりましたが見つかりました。産学官連携と振興公社の中にあります知財センター両方に相談いたしまして、大学まで相談に行っていただくなどして、共同研究ができるところまでいっています。

産学官交流プラザは、埼玉県技術交流プラザというのが最初にございまして、その卒業された方を中心にしまして、1988年に設立されています。現在、メンバー数は、企業が41社、大学が6校、金融機関が3社、このような形で構成されています。そのなかで、ものづくり製造関連の企業が30社、販売関連が5社、ソフトウェア設計が2社、経営コンサルタントが3社という構成になっております。

活動内容と致しましては、ホームページの運営による広報活動、ビックサイトでおこな



われまず自動車部品生産システム展など展示会への出展、メンバーでもある埼玉大学の滝先生・日本工業大学の玉木先生のご協力によりまず機械学会での発表、研修会、工場見学会、勉強会を実施しています。さらに交流と致しまして相互会員間の交流ですね、これは、グループ、企業間の交流ですから1社対1社が非常に多いんですけど、そういうのが活発におこなわれているということです。関東経済産業局担当の異分野連携新事業分野開拓計画、略しまして新連携計画の連携をされている企業もあります。

海老原

会社設立しまして43年を経過しております。22歳で商売を始めて22歳で結婚しております。天然木化粧板というものを製造販売している会社で、現在、従業員は50人です。私は、3年5年先のものにチャレンジをする。投資をする。先に物事にカネをかけるというのが私の仕事の使命といいますか考え方なので、なかなか儲からないというのが現状です。

そのような考え方で仕事をしてまいりまして、JAS認定工場に認定され、自分の会社でつくっておりますもののうち4点ぐらいは、国土交通省の認定を頂いている品物です。

40歳まではJCとか青年部とかいったボランティアは何もやらず仕事だけに没頭してきました。40歳から地域のためということで、商工会議所の役員、春日部にある豊野工業団地というようなものの役員をやらせてもらっています。

後継者の育成についても、先を見て、投資するという考え方を実行しました。長男が、関係会社に5年契約で就職させた後、東京の品川に二世学院、後継者育成の学校ができました。そこに入学をさせましたが、1年間1千万円ということですが、借金をしまして、投資を致しました。「1千万出すんだったら機械買ったほうがいいんじゃないの」と友達に言われました。その後自社に28歳で入りました。せがれが32歳のとき、専務にどうだろうと申したところ、役員が社長それは早すぎる、どうしても専務にするなら自分おれはやめるといわれてしまいました。私はその通りだと思って反省して専務にはしませんでした。ただし、うちのせがれも30歳でJCに入り、37歳で春日部のJCの理事長をやらせてもらいました。その時期に、うちの役員会でうちのせがれを専務にということを提案したら、そのときには誰も言う人がいなくて専務になりました。それで、せがれが40歳私が62歳のとき社長に譲りました。というのは、男というのはだいたい40歳から、55・56歳が冒険のできる年齢で、60歳近くなると守りに入るということで、私は自分の経験から40歳過ぎたら男には経験をさせる失敗しても年齢は若いと考えてそのように致しました。3人せがれがおりますので、上が社長、真ん中が総務部長、一番下が工場長でございます。

異業種交流会への参加としては、春日部の豊野工業団地の理事長をちょうど3期目に入りましたが、やらせてもらっております。60社、従業員があわせて1320名の組合で



す。また、春日部商工会議所の副会頭をおおせつかっております。商工会議所のいろんな役の中で、交流の図れる場所を考えておりましたところ、商工会議所に技術交流プラザの募集等のチラシというか文書がありまして、参加することにしました。

技術交流プラザ、実は、3日前に卒業式があったのですが、私たちの卒業生は2006年度が4人、2005年が8人、私たちが4人でございます。でも私たちは、1年、2年、3年で卒業なんですね。そのなかで、1年目は顔合わせ、3年目に入りまして、4人のなかでいろいろ検討した結果、製品を作る、というか、特許を出そうということで、本当は今日私のはんこを持ってこようとかその辺までですね進んでいるところです。大変勉強になっております。

河野

補足説明させていただきますと技術交流プラザは昭和58年からの交流会でございます、さきほどお話にありましたように産学官交流プラザは技術交流プラザの卒業生の先輩方の会ということになります。

小菅

私ども昭和28年に長瀬という観光地で創業いたしまして54年になります。当時、東京の中古屋さんの店の中ではなく表に出してあって、多少雨ざらしになっているような機械を直してそれで仕事をするということから始めました。それがのちのち自分のうちで専用機を作ったり、機械を改造したりする技術につながっているの、決して苦しかった時代がムダではなかったと思っています。

その何もわからないころに、今の長瀬から東京へ毎日仕事探しにバイクでいったりきたりしましたが、その中で「浦和に県庁というのがあるからそこよってみろ」ということを言われ



まして商工部にいってみました。ところがみんな出張しちゃっていない。何回か通いましてやっとお会いできた先生に診断をしてもらうことになりました。すると、「これじゃしょうがないね、まあ後半年もたつとつぶれちゃうよ。」といわれました。そして最後に、「君は将来どういう会社にしたいんだね」といわれました。「どういう会社に」といっても従業員が10人かそこらでその日暮らして仕事を探している時代で、1日でも長生きしたいと考えているときでしたから、将来どういうふうななんて大きな夢なんてもてないときなんですよね。そこで、「将来地域社会に貢献できる会社づくりをしたい」と書いておこうといわれたんですね。私はそのとき目からウロコが取れるように「あ、そうだ会社経営というのは自分の利益だけのことじゃないんだ。その会社を発展させていって将来本当に地域社会大きく言えば国家に貢献することなんだ。」と気がつきました。この診断を受けて近代化資

金というのを始めて借りることができました。35万円、欲しかった機械の3分の1しか借りられない。けれども5年間無利息というのがありがたい。そのころ結婚した妻と二人で浦和のほうに足を向けて寝るのをやめようといったものです。35万円でもありがたかった時代がありました。

自転車部品からオートバイ部品、そして自動車部品に変わっていくんですが、自動車部品をやっと受注できるようになったとき、たまたまアメリカに行くことができました。大きな自動車を女性がすいすい運転している、タクシーに乗っても。パワーステアリングという油圧でハンドルを軽くする操作ができています。これは将来日本でもこういうものが使われるのではないかと思いました。

これが契機になって、同じ機械を扱うんでも、自分のうちで少しでも自動化するために油圧のことを覚えたい、空圧のことを覚えたい、そこでできるだけ自動車部品の中でも油圧・空圧に関した仕事、最終的にはパワーステアリングですね。とはいいまして、私どものところはアッセンブリしているわけではない。われわれの業界は、自動車メーカーがあって、その下に自動車部品工業会があって、その下にわれわれがあるわけです。

石油ショックのときに、あちこちで軽薄短小といわれている時代に、私は重厚長大の仕事をしようと思いました。トラックやバス、産業用機械などの部品ですね。これは、設備はかかるし、工具はかかる。ここ数年、空洞化という言葉が聞かれますが、小さいものから海外に出しちゃったんですね。

そういう中で、よその会社と差別化していこうということで、私は常に「儲かる仕事は長続きしないんだ」と、「儲からない仕事を取って来い」といつてきました。少し乱暴な言い方なのですが、よそで採算が合わないような仕事を私どもの技術で「黒字になるんだ」「利益が出せるんだ」ということになれば、仕事が比較的集まりやすくなるんじゃないかというように思いました。

現在の主力部品はトラックのパワーステアリング、乗用車のラックアンドピニオン、産業用車両のエンジンケース、ミッションケース、バルブユニットなどを作っています。

また、工場の4Sから工場の汚れの原因として切子が問題になりました。そして、従業員の目に切子が入ると言う問題がありました。このことから洗浄機を開発しましたが、便利に使っているのを見て売れるんじゃないのといわれ販売しましたが、11年目にやっと1台売れ、現在は70台くらい毎年売れています。はじめから金儲けしようと思ってはだめだと思いました。でも、これからも、いろんなものを開発していきたいと思っています。

私ども、さきたま利根テクノプラザは13・4年前、異業種16・7社で始まりました。異業種交流の経験のある人もいればない人もいます。それが、16・7人並んでお互いの鼻の先見ながら、自己紹介やってね、このグループが将来どうなるのか、プラスになるものがあるなら参加していきたいし、そうでなければ途中でやめてしまいたいし、そういう思いをみんな持ってたと思うんですね。

それで、まず皆さんの気持ちをひとつにするために始めたのは、みんなで考えたものを

特許出願してとろうということになりました。住宅関連のところにいまして何か欲しいものがありますかといったら、屋根裏に荷物を持ち上げるものがなくて困っているということでした。図面を書いたりして特許出願しましたが、審査請求しようという段になって、メンバーの変更があったりして特許にすることをあきらめました。

ステップ(さきたま利根テクノプラザ)をやっていくうちに私は経営の勉強は当然しくちゃならないけど経営だけでいいんだろかということを考えました。皆さんは非常にご自分の仕事のことには詳しいんですね、ところが一步出ると分からないということが多い。そこで文化性を高めようということで、いろいろなことをやっています。私はこの会というのが集まって楽しい会でなければ皆さん出席しませんから、楽しい会、自分にもプラスになる、そういう会を目指しています。

間庭

私は2代目なものですから、ご三方のように創業の思いを熱く語るということにはできないのが残念です。親父の会社に気がついていたら入っていました。

私どもは、生麺類を製造販売しております。冷蔵品のうどん、そば、ラーメンなどを製造してスーパーマーケット、業務先、学校給食関係へ納品しております。また、郵便局を中心としたゆうパック、通販も若干あります。

ここ10年間、食品に関しては、いろいろと問題が起こっています。そのために、表示などの問題点がでてきます。

埼玉食品テクノプラザは、食品関係、実際に食品を作っているところ、食品に関する機械を作っているところ、そういう食品を中心にしたメンバーが集まった会です。今から19年ほど前、昭和63年に大里のテクノプラザという感じで、今の北部研究所の中に事務所を置きまして、発足しました。その当時から今まで会の内容というのは同じようにやっております。食品工業を見学する。そういう視察研修をメインにしております。それから食に関する講演会を年に2回程度実施しています。視察研修もはじめから年に2回から3回のペースです。年2回見学するとき、1回は県外の食品工場に1泊の泊まりで出かけていく、もうひとつは日帰りで県内の事業者です。北部研究所の方に手配してもらっていますので、われわれが頼んでも視察できないようなところでも見学できます。かなりの工場を見学したと思います。それとまた、講演会のほうも食に関することメインですが、たとえば、大手のラーメンチェーンの社長の講演会とか、結構興味の有る講演会をたまにお聞きするというようなことをしております。

われわれの食品テクノプラザは、何かをつくるとかそういうことは時間も足りないののでできないのですが、情報交換ということでは結構密にしております。食品業界は今ISOとかHACCPとか、取り組んでいかなければならない状況になっており、メンバーの中



にも実際に取り組んでいる会社も多数あり、何かあったときにはすぐに相談に乗ってもらえるということもあります。

また、北部研究所の職員だった方がOBになってアドバイザーという形で一緒に活動してもらっています。この方たちが、専門職ですのでかなり突っ込んだ話ができます。そういう意味で、一緒に入って活動しますとかなり専門的で内容の濃い会であると思います。派手さはないですが、結構和気あいあいとやっています。

森田

ファインテックという会社の代表取締役を致しております。

ここまで紹介のありました諸先輩方の団体は、名前を聞けば団体の概要が分かる会だと思うのですが、あいあい会は何をやっている会なのかなと思われたのではないのでしょうか。それを思ってもらえたらしめたもので、興味を持っていただくということが形になったものといってもよいと思います。

あいあい会は、埼玉県産業技術総合センターのインキュベーション施設（貸し研究室）で行政の支援を受けている企業の会になります。まだまだひよっこでございまして、起業したもの、第二創業でもっと仕事を大きくしていこう、そういう人の集まりです。

私がこのセンターができました2003年に起業させていただきましたので、センターの歴史とあいあい会の歴史と、私の会社の歴史が一緒になっています。

この会社を起業する前に電気系の開発会社に勤めておりまして、研究開発部門の責任者をしておりまして、バブルがはじけまして、研究開発にはお金もかかる投資もしなければならぬ。会社は、商社化の道をえらんでいくということになりました。研究開発部門はどうするのか、お客様もいらっしゃるのでその人たちに対するサポート、技術の提供はどのようにしていくのか、そうしたことも考えてこの際起業するべきかどうかということに悩みました。

創業の半年前から、ちょうどセンターが開業する半年前になりますが、埼玉県中小企業振興公社に通いまして、支援のもと事業計画を作成しました。半年かかりましたが、どういう会社をやっていきたいかを考える時間になりました。埼玉県に居住を持って、ここで起業して、自分の仕事をしていくのは意味があるのではないかと考えました。

最初は、まったく1人から始めましたが、まる4年が過ぎまして、今は社員が5名、中国に合弁会社を作りましてそちらに技術者を15人という形で運営しています。有限会社からスタートして株式会社に、資本金も少しずつですが増しました。

競合先との優位性を取るためには、研究開発をしっかりとっていかねばならないということで、センターにありますいろいろな設備を活用させていただいております。一企



業や一研究機関が用意することもできない、われわれのようなベンチャー企業がやろうとすると数億という金をどこからだして来るんだという設備をいつでも使える環境にあるというメリットを感じています。

あいあい会は、23企業とこれまでご紹介のあった異業種交流会と比べても多いほうですが、産業技術総合センターのインキュベーション施設に入所している企業が21社、プラス卒業した企業2社という23社で運営しております。

よいところは、ビルの5階、6階、7階と時間さえあればすぐ相談できるという環境にあります。悪いところは、出ていかなければならないという期限があるということです。これは会の存続をどのようにしていくかというわれわれの課題になります。

一番最初の見学会で、千葉県柏市の東葛テクノプラザに参りました。そのセンター運営、入居者卒業企業との連携について学びましたが、埼玉県人として、われわれの特徴を出していきたいということで会を作ろうということになったのが、会の始まりです。

名前を作るときに、インキュベートのI、インフォメーションのI、であいのI、私はインダストリー：工場だとか、はいるときに「あいあい」という言葉から何かイメージしてもらえればいいのではないかとこのころからあいあい会という名称でスタートしました。

今後、親睦会の飲み会だけでなく、センターの方との交流、外部の方との交流、さらに地域からの発信、共同事業もしくは商品開発ができる団体へと発展していければと考えています。自分でやろうという意思を持ってきた連中ですので、この熱が冷めないうちにどんどん交流して、熱いうちにすれば何でも形は変わりますし、いろんな形が作れるのではないかと、スピードを上げてそういうことに取り組んでいきたいなと、思っています。

河野

異業種交流会のあつまりですので、その交流会の中でどういったことがプラスになってきたかということ、さらに具体的にお伺いをしたいと思います。

先ほどまでのお話をお伺いした中で、キーワードとなってまいりますのは、やはり産業技術総合センターの異業種交流会ということで技術の面のお話が出てきたということ、情報が非常に集まる場所だということが出てきたことだということがあるかと思えます。まず、それ以外にも人と人とのつながりというのがあるかとは存じませんが、技術面での連携あるいは、技術面での産業技術総合センターとの結びつきという角度から、お話を伺えればと思えます。



森田様、今のところみんなで何かをされているというのではないんですけれども、非常に技術設備などが役立ったというのは「ご自身の事業で」ということではないかと思いますが、そのあたりで何かお話いただけますでしょうか。

森田

私自身の業種が、電子機器に関するハードウェアの設計あるいは開発そういう作業をさせていただいておりますので、やはりモノを作るという面では検証をしなければいけない。検証するという事は試験をしなければいけない。先ほど申し上げました半導体業界様というのは、世の中になくものをどんどん作っていくということで、測定器も追いつかない、簡単に開発されたものではそれに耐えていけない、という面があります。センターの10メートルの電波暗室は、一般企業が使おうとすると公的な機関の順番待ち、民間でありますと多額の費用を出して対応しなければいけないなどという面がありますが、私どもにおいてはその中で、もちろん手続きは踏むのですが、場所が近いということでこちら柔軟に対応できるなどの、大変なメリットがありました。

河野

センターの中で事務所があるということが大きいメリットだと思いますが、会の活動などは直接的ではなく間接的に情報収集などに役立ったということはいかがでしょうか。会の活動を通じて、こういう技術がここではできるんだといったような、情報交換になったようなことはありますか。

森田

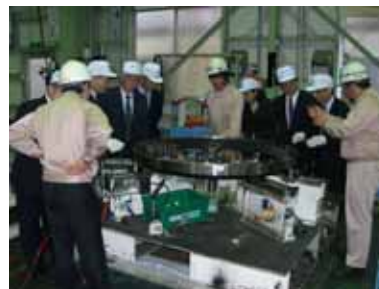
会の方々にはいろんな方がいらっしゃいまして、医療系の会社様、あるいは製薬系の会社様とか、また、変わったところではバッティングセンターの設備を売っていらっしゃる会社様とかいろいろあります。その中で、やはりあの私どもではちょっと考えられなかった、仕事の仕方考え方というのはやはり市場が違くとまったく分からなかったことが多くございます。聞くことによって、われわれの業種にも使えるのではないかと、それでセンターの設備も使ってこういうことができるんじゃないかと考えることができます。企業さんとどうしでは、もうビジネスが始まっている、異業種で知り合うことでビジネスが始まったという例もあります。

河野

稲見様、産学官交流プラザは参加者も多く、様々な技術的な情報交流というのができると思いますが、その中で出てきた効果など、お話いただけますか。

稲見

産学官交流プラザという名前の通り、官も大学もメンバーに名を連ねております。技術的に交流が活発におこなわれているかという、必ずしもそうではなく、人的交流といえますか、経営情報はじめ、その時々最先端的な技術情報などの情報交換になっています。実際ものづくりに直接影響するという交流というのは、初期の段階ではあったようです。特許につながるようなものも何社か試作品のようなものまで完成させたという例は聞いております。



今後のことですが、異業種交流会というのはいろんな形があっていいとおもいます。小菅さんがおっしゃっていたように、楽しい会、文化的な会、専門的な会、いろんなものがあるってよいのではないのでしょうか。また、ものづくりと地域密着した農業、農地を活用する方法。あるいは、われわれのノウハウが生かせないのかなどのご意見もメンバーにあります。

会の中には、産学官とは申しますけれど、官の接点とはもうしますと、事務局とはお世話になっておりますけれど、官の力との連携をより密接にできないかと思います。森田さんが言われましたが、あれだけの研究員とあれだけの設備がございますので、より、有効に活用していきたい。そのためには、メンバーの中に入れていただき、技術系のコーディネーターとしての役割をしていただきたいと思います。

河野

その技術的なコーディネーターというのは、その、やはり、技術的な結びつきですとか、最先端情報が知りたいというように考えてよろしいでしょうか。

稲見

たとえば、民間で分析するとなると結構お金がかかる。そういった場合に相談するところ、簡単に、気楽に相談できる。メンバーであればたぶんそういうことが、より、日常的に、気楽に、相談できるということではないかと思います。

河野

蛇足ですが、先ほど申し上げました、中小企業地域資源プログラムというのは、製造業、農業との連携を含むような施策展開のようでございます。

話は元に戻させていただきます、先ほど情報交換の中で公の方に入らせていただくことで、より技術的な支援を受けやすい体制になるのではないかというのが骨子だったとおもいますが、間庭様のところは、研究会の中にずいぶん関与していらっしゃるようだったので、お話をさせていただいてもよろしいでしょうか。

間庭

北部研究所では、酒の研究や漬物の研究の実績があります。また、小麦粉を扱っていますので、埼玉県産の小麦粉のデータを埼玉県生麺組合で依頼して、取ってもらったりしています。

食品の研究テーマは、時間がかかるものが多いので、1年～2年といった期間がかかります。1企業ができるものでもないで、役立っている研究が多くあります。

また、野菜羊羹、地場の野菜をつかった羊羹とか、そういう食品開発を、われわれ食品テクノプラザのほうで支援させてもらったということがあります。



河野

埼玉食品テクノプラザの会員名簿を拝見したときに非常にその食品製造業様だけではなくて食品関連の製造業様、食品製造機械ですとか、食品検査機械の製造業様とか加わっていらっしゃる。また、長くメンバーも移動なく続いていらっしゃるということで、静かな上手な連携がされているのではないかと思います。

先ほどの皆様の会の紹介の中で、当初のころには、技術開発というのが、ひとつの製品の開発というのが連携のスタートになったという話が出てきたと思いますが、その当初のところの技術開発をするという、共通基盤を目指すのが、技術交流プラザの考え方ではないかと思います。

海老原さん、技術交流プラザ今年、卒業されたわけですが、そこまでの技術開発の経緯についてお話頂ければと思います。

海老原

埼玉県技術交流プラザは、埼玉県の事業であり、3年間という短い期間いろんな人と話ができ、いろんな情報交換ができてよかったと思っています。

最初はメンバーが慣れなかったのですが、事務局や助言者のお世話になりました。

プラザは、3年間という短い期間でしたが、全員が入れ替わるということが交流のひとつではないかと、1年ごとに新しい人が入ってくるのがよいと思います。

活動の中で工場見学ができたのがよかったと思っています。東洋パーツさんの工場見学も2年位前にさせていただきましたが、立派な工場でした。新しい工場ができて操業を始めたとのことなのですが、時間がありましたら見学に行きたいと思います。

私どものメンバーで新しい製品を作ろうという話があるなか、私の会社に工場見学に来てもらいました。天然木、木材のツキ板というのを加工して、住宅あるいはこういう施設の内装材に使っております。その中で、端材を利用しまして、一緒に見学した人が何かい

いものはないかという話になりました。また、メンバーの大成さん、本社は戸田市なのですが、館林にある工場に見学にいきました。大成さんでは、樹脂加工、ゴムの加工などをされていました。この端材と大成さんの加工技術を組み合わせて、ここ1日、2日のうちに特許を出すことになっています。



いろいろな人と交流してものができるということがよかったですと思っていますので、もっと会の中身を県知事にも知ってもらいたいと思います。

私たちが卒業して、次の新しい会員さんも技術交流プラザでは募集しています。どうか皆様のお知り合いの方等がございましたら、技術交流プラザのほうにお願いをしたいなどそのように考えております。

河野

私も卒業しまして丸三年たちまして、ちょうど1年半ぐらい前に、製品開発しました仲間と、伊香保温泉に1泊旅行しまして、充実した時間をすごすことができ3年間でできた信頼関係の深さというのを感じました。

おそらく、小菅様のところはそれを越えたつながりにはなったと思うんですけど、技術的な交流ということをどのようにお考えかということをお話頂ければと思います。

小菅

6枚パネルがはってあって、全員がよろいを着てという写真はないと思いますが、これは1月の成人式、この日は武道初めとってこの日は武道館で鎌倉時代の儀式をやっていて、たまたま私が継承しています。そこで、みんな鎧を着てみないかということで撮影したものです。

われわれ異業種交流を通じまして将来の友人づくりということですね。やっぱりこう、いつまでもお付き合いしていこうよというそれには楽しくないとだめだと私は思っています。

私の会社で、前に設計室だったところを全部たたみにしまして、そこで、つきに2回茶道をやっていきます。今のところ女子たちがやっておりますが、管理職の人たちもそれなりの作法でお茶を頂くことができなくちゃと考えています。で、それを、交流会でやろうということになっています。

また、「きれいなものを見ようよ」と、私仏像の話をするものですから、それを見にいこうということになって、みんなで貯金をして観仏の旅というんですかそんなことを今まで、2回ほどやりました。

それから、そのほか皆さん頭を使った後だから瞑想しようよ。実は、瞑想って私言っているんですけど、気功ですね。また、連句をやっていきます。1国1城の主が死ぬときに、

自分の人生を振り返って、辞世の句を出せるかい。そもそも日本人はそういう文化を持っていたからわれわれもやろうよ。ということですね。前の句の人に続いて次の人も出すんですからブレーションニングになるんですね。なんとまあ、50歳、60歳になった経営者から初恋を思い出したような瑞々しい



句が出てくるんですね。なれないから一生懸命指で数えながらやっていますけれど、それにしても本当にいい句が出てきます。こういうことが今の経営者というのは足りないんじゃないかと思うんですね。そういうことで私自身、も、そういうことを教わってきました。何も分からず、ただただ経営のことだけ考えていてですね、そういうときにこういうことも勉強しなきゃいけないよと。自分自身はものづくりって言っているけど、従業員の人づくりって言っているけど、自分自身の人づくりができていのかどうかというと考えていると誠に疑問があるわけですね。それぞれがみな経営者ですから、皆さんにそういうことを進めてそれでその中で親しくなり、やがて何かが生まれるかもしれません。

そのほか、年に1度か2度、利根川がありますから、そこで野外パーティやるんですね。そこでなまずのてんぷらだとか、ちょっと変わったものやりまして、みんなでわいわいこう集まって、そのときはわれわれの会だけじゃなく、他の人もぜひどうぞということで、ま、20人くらい集まってやっています。情報交換は非常に大切なことですが、目的としては生涯の友人作りといいますが、のためにその会を楽しくやっているとそういうことでございます。

河野

今のお話で生涯の楽しい仲間作りと、会を楽しくというのとインパクトのあるいくつかの事例をお話いただきましたが、私も1度参加させていただいたことがございます。もちろん瞑想も経験いたしまして、連句はありませんでしたが。実は参加させていただいてすばらしかったのは、情報交換の質の高さだったんです。一般的な異業種交流会とは違う、かなり品位の高い情報交換が異業種交流会の中でされて、その後の飲み会でもかなり積極的なお互いの育てあいといったような場面が見られました。生涯の友人作りの機会でもあり、非常に重要な情報交換の場を作られているんだなと感じました。また、経営者同士の旅行ですと、もちろん美しいものに親しんでいらっしゃるんだとは思いますが、いろんな意味で相互に育つ機会を作られているのではないかなと、若輩者ながら非常に感心した覚えがあります。

様々な情報交換ということでございますが、例会の中で工場見学に行く、あるいは施設見学をされたというお話をいくつか頂きましたが、他の工場に行く、他の施設を見るとい、そこで気が付いたこと、それは技術系ならではの、気づきだとは思いますが、この点につきまして、お話を頂ければと思います。

森田

それほど、いろんなところには参加していないんですけど、理化学研究所に参りました。交流も含めて産学官のプロジェクトで補助金助成を一緒に出したりとかそういうことも知りましたが、いろいろな作業のやり方、申請書の書き方すら分からない、それも含めた段取りなど、また生の声を聞くことができた機会がもてたことが、記憶に残っております。



間庭

工場見学はけっこうやっています。同じ食品の製造ですから、基本的に衛生管理とかそういうことに関しては大きな工場を、見ると必ず参考にさせてもらっています。メンバー全員食品関連ですから、共通なことで、取り上げられると思います。あと、一流のワイン工場とかあるいはしょうゆ工場に行きますと、設備の違いそれに痛感させられて、こういう設備でものを作ればいいなというあこがれに変わってきています。

造り酒屋さんとか割とあちこちにありますので、いきますけれど伝統工芸という考え方でいきますと、手作りの伝統工芸、いくら機械化されたものでも、どっかに手が入って、きちんと昔からの味を守っていくそういう姿勢を見ることはわれわれにとっても、大事なことです。大量生産・大量販売でなくて、日本酒はなかなか売れない時代ですけど、そういうことをやっているが残っているんじゃないかと思います。

見学する工場の規模の大小ではなくて工場の「ものをつくる姿勢」というそういう観点からいきますと、ただ単に設備ではなくて、低姿勢というか、ものを作ることの大切さというのを逆に感じるができると思いました。そういう意味では工場見学はいい勉強になります。

小菅

表に行って、会社の従業員も工場を見学するなどの機会を持たせるようにしておりますけれど、技術というのは隣になかなか伝わっていかないですね。自社で小さな改善ですが月に50件から80件くらい出ます。それをQCサークルなんてかっこよくしないで、現場の中を機械が回っていますからハンドマイクを持ちながらですねうちのほうのグループはこういうところを改善したという話をします。大体この80件を発表するのに2時間で、まあどれが良かったかを決めます。1番になっても、手袋を10足もらえるだけですよ。会社では提案制度がありますが、提案制度なんかではなくて申請するのではなくて、どんどん改善していくのがあたりまえなんだというように日常化しています。

考えてみると、異業種交流の一番始まりは埼玉県なんですよ。昭和28年だからですね。

埼玉県は標準工場という工場を集めてのグループで勉強しようということをやっています。最初、通産省（当時）が、異業種集めて勉強だなんて何事だっていったんだけど、そのうちに神奈川県でつくり、どこで作り、だんだんと増えていって、今では国のほうから異業種集まらってというわけですね。そういう異業種の標準工場って言うのが埼玉県にあって、指定を受けることがわれわれは目標でした。指定を受けたときに本当に目頭が熱くなりましたよ。その次の国のモデル工場の指定を受けたときはそんなに感動がなかったですよ。何で感動したかという指定されたんだから、自分のことだけではなくてよそへもどんどん公開して工場見学してもらって、われわれが考えたことを持ってってもらってもいいんだ。持ってもらうでもいいんだけど、われわれはその先のことを考えようと。いきさかんに燃えた時代があったんですね。

最近では時代が変わってきましたからね。なかなかその、私が工場見学を受け付けるといっても、これは発表前のやつだから受け付けられないほうがいいんじゃないかといいます。でも、異業種集まってお互いに自分のところを見せる。まねされちゃうかも知れないだからその上のもの考えるそういうつもりでやればできますね。だいたい、私大勢さんの前で話す機会多いですけどね 100 人いて、よし、それじゃやってみようというのは2人ぐらいしか、2社ぐらいしかないですけどね。あとはできない理由を考えていますよ。

海老原

ISO を取得し、彩の国工場に認定され、経営革新法にチャレンジをしていることもあり、工場見学にこられる方がいます。そのようなこともありますので、社員教育、職場の整理整頓などに配慮しています。小さい会社ですけど、最後にお茶をいっぱい飲みながら、私どものいいところではなくて、悪いところをお話をしてもらおうということを経験からお願いして工場見学をしてもらいます。そうすると、業種が変わっておりますので、いろいろな工程の問題、こういうふうにしたら生産があがるんじゃないかな、こういうふう機械を並べたらいいのではないかなということをお話してもらえます。こういうことが工場を見てもらうひとつの勉強だと考えています。

また、技術交流プラザに入りまして、何軒も工場見学に行きました。私どもと同じ会社は1社もありません。精密機械、プラスチック、精密関係のところの視察が多くございました。仕事は違っても考え方のポイントは同じかなと思います。私どもは木製品、自動車部品は東洋パーツさんとぜんぜん違います。でもなんか自分の企業に取り入れるところがあるということで見学をさせていただいております。

また、工場見学をしたい。行ったときは勉強をさせていただきたいと思っております。

稲見

産学官交流プラザではこのところ、隔年で海外研修というのをやっています。最近是中国に進出した日本企業を中心として見学をしています。特に、大きな工場ではなくて、

中堅の工場、中国との合弁の工場。機械加工関係を多く見学しました。

18年度は国内の工場見学を致しました。ひとつは、川口にございます医療機メーカーさんです。乳幼児向けの人工呼吸器を開発してもう20年くらいたつ企業です。経営者の方はベトナムから日本の理系大学に留学いたしまして、ベトナムに帰らずに日本に帰化された方です。医療機の開発というのはリスクが非常に高い。なかなか日本人にはチャレンジできない分野ではなかったかと思います。ベンチャーとして医療機を開発して、国内よりもむしろ欧米で販売されているような話を伺いました。この会社を見学したときに、やはりチャレンジ精神といいますかこれが大変勉強になりました。

産学官交流プラザを今後どのように発展させていくか、今日お見えになっているわれわれのOBの方々何名かおいでになっておりますけれど、また、そういう方々も含めて今後どうあるべきか、また、今日代表で勤めさせていただいております各異業種会の代表の方々ともこれから大いにこのような機会あるいは工場見学などを通じて交流させていただきたいなと思っております。

河野

異業種交流会の中で、工場見学に行きますとこれは私だけの感想なのかもしれませんが、ほかの方の見学後の意見を伺うのが非常に楽しみで、現場・現物・現実の捉え方の違いに驚かされることが多くあります。いろいろな方がどう捕らえているかを感じることでさらに次の気づきに繋がるのが、工場見学するときの大きな収穫になります。異業種交流会のなかでの工場見学、あるいは自社での工場見学について、現場・現物・現実の中でどのように交流していくのかのひとつの足がかりにさせていただきました。



さて、時間も最後になりましたので、これからの異業種交流会はどのようなやり方で進めていくのがよいのか、特に、産業技術総合センターに事務局をおいてくださっていますので、いろいろな意味で技術情報とは比較的近い異業種交流会ですのでそのような点も含めまして、お一人ずつコメントを頂ければと存じます。

森田

これからあいあい会をどうしていくかを含めまして考えていくのですが、やはり、私としては人との交流というもの、情報の交流というのもそうですが、具体的に一歩進めて、それをやはりしっかりやっていくためには、行政の手助けを頂いた形が現実的に望ましいのではないかなと考えています。

もう少し具体的な案なのですが、やはりあの産学官の交流をするという場に集まるということだけではなく、人の交流、人の出向というところまで話が進まないかなと、例えば

の話なんですけれども、センターの技術職員の方が私どもに出向でこられたり、また私ども人間がセンターにいたり、大学も含めてなんですけれどもそのところをうまくまわしながら、ここでは何をして何のニーズがあり、何のシーズがあるかというところでのコミュニケーションをとっていくということで、いろんな情報あるいは交流というのができていくのではないかとこのところがあります。

各企業間の交流ということを考えますとそれを共同でやるための引き金的なところをどうクリアしていくのかという問題があります。ある程度時間の制限が有る中、今後どう発展させていくのかということがありますが、他の団体、諸先輩の団体との交流をふまえて、あいあい会自体も発展させていければと思っております。

間庭

埼玉食品テクノプラザでは、何かモノを作るとなかなかちょっと難しいのではないかと、というのは会員が食品に関するメンバーですので、時間的余裕がない会社が多い。で、そういうことで従来どおりになります。情報交換、そして工場見学を通じて会員相互の交流をもっともっと高めていきたいと考えています。

それと世代交代の時期に入ってきていまして、大体が伝統食品が多いもので、2代目3代目の交代になっていきますのでこの交代をいかにうまくやっていくか、ということが大事なことではないかと思っております。

小菅

工業技術センターをはじめとして県の職員の方には、足を使って沢山よそをいろいろ見てもらうということがいいことだと思うんですね。で、おかげさまで会場をお借りしているつもりでわれわれが行くんですから、同じ方が事務局として出ているのはいいですけど、やはりわれわれがどのようなことをしゃべっているんだか、どんなことを考えているのかということを知っていただくためには、お忙しいでしょうけれどたまには他の方も事務局だけではなくて何人か参加していただくと、こういう施策をこれから考えたほうがいいんじゃないかなということも出るんじゃないかなと思います。

海老原

私は一言。プラザを埼玉県いっばいに行政側がPRしてもらって、皆さんが勉強してもらおうということがいいのではないかなと考えています。



稲見

先ほど申し上げたんですけれども、官の方何らかの形で結構ですからメンバーに入っ
ていただいて、その費用は県の予算はわずかだと思いますから、事務局のご支援は非常に
ありがたいのですが、それ以外にコーディネーターの形あるいは何らかの形で、入ってい
ただけたらと考えております。

それから、このような形が開催することができたわけなんです、これを機会に横のコ
ミュニケーション、をできたら今後発展的に取って生きたいと考えております。

他の異業種交流会にオブザーバーとして参加するとか、参加して頂くとか、例会にあわ
せて、勉強をさせて頂く機会があればありがたいと考えております。

河野

ありがとうございました。先日 SAITEC のある方が、中小企業の本当に必要な情報を汲
み取る機会が減っているということをおっしゃっていました。なぜかという、ここには
こういう研究施設がありますかという問い合わせが以前に比べてかなり減っている気がす
る。インターネットでどこで何ができるか全て分かる時代になっているので来る方がすべ
て選抜してしまうのではないかと。できないってわかってしまうと誰も来ないのではない
かという話がありました。

また、中小企業経営者のほうからしますと、確かにその研究はできるのかもしれない。
でも、だれがどのようにやっているのか、研究者の顔が見えないのに頼みに行くのは不安
だということもあります。

おそらく両方の方向を解決する手段を皆さんが提案されたんではないかなと思っており
ます。

本日お忙しい中、おいで頂きました。稲見様、海老原様、小菅様、間庭様、森田様、あ
りがとうございました。

4. 真木幹事、高畑幹事あいさつ

真木

本日はこのような交流会ご多忙中にも関らず、おいでいただきましてありがとうございました。パネラーの皆様、本当にお疲れ様でした。本日このような会を通じてそれぞれの交流会で実際の活動ですとか、交流状況非常に参考になったかと思えます。ご商売上、あるいは研究開発上も、人的ネットワーク、こういうフェイス・トゥ・フェイスの関係も必要でございます。したがって、本日このような会をきっかけにそれぞれの交流会の皆さんがそれぞれ活発に交流ができるように盛り立てていきたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

高畑

皆様のお話の中で技術交流のあり方や、将来の友人作りということを大変有意義ではなかったかと思えます。

これを機会に各異業種交流会の発展につながればよいのではないかと思えます。なお、自動車部品生産システム展がおこなわれます。こちらの産学官交流プラザでも参加することなので、ぜひ行かれる方は参加していただきたいと思えます。

以上を持ちまして埼玉県異業種交流会を終了させていただきます。ありがとうございました。



.....
埼玉県合同異業種交流会報告書
～これからの異業種交流会のあり方～
2007年9月2日発行
編集・発行 埼玉県産学官交流プラザ
有限会社河野経営研究所
.....